

## 第3回 運営会議 議事録

日時：平成20年2月6日

場所：大阪府庁共用会議室（本館1階）

出席者（敬称省略）

増田 昇（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）  
澤木 昌典（大阪大学大学院工学研究科 教授）  
前中 久行（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）  
下村 泰彦（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授）  
嘉名 光市（大阪市立大学大学院工学研究科 准教授）  
清野 博子（元読売新聞編集委員）  
永田 宏和（NPO 法人プラスアーツ 理事長）  
弘本 由香里（大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）客員研究員）  
吉野 勝（泉佐野観光ボランティア協会）  
西台 幸子（うみべの森を育てる会）  
松下 義彦（泉佐野市 都市整備部長）

おもな意見

議案1：コンセプトブックについて

議案2：公園のプロモーションについて

- ・景観に関する考え方については、公園内の景観だけについて考えるのではなく、背景になっている山なみなどとの関係性を踏まえて検討することが必要。
- ・コンセプトブックの使い方を整理することが必要。
- ・公園の愛称を募集することを踏まえた上で、わかりやすい公園のキャッチコピーが必要。
- ・コンセプトブックをつくる目的は、公園の目標像を共有することであり、行政が整備するところと府民が参画してつくるところとの方法などに不整合がないようしておくべき。
- ・公園の整備や管理に関する廃棄物の問題をどうするのかを明示しておくべき。
- ・パーククラブと協力して、公園の記録から成長を後から眺めることができるコンセプトブックの内容にすることを検討すべき。
- ・開園後のプロモーションも検討しておくべき
- ・外部組織との連携によって、出前講座のような公園外で活動できるしくみが必要。

議案3：パーククラブについて

- ・パーククラブというのはホスト側のクラブであり、企画書などをつくれる人がパークマネージャー、企画を実際に動かそうという人がパークレンジャー、10回に1回くらいしか参加できない人がパークフレンドになる。

- ・パーククラブの運営に寄付してくれたり、パーククラブがつくった作物を購入するという形で寄付してくれたりするサポーター層がいるのではないか。
- ・パークフレンドも、1日か2日くらいの入門的な講座を受けて、理念の共有と安全管理だけは理解しておいてもらうべき。
- ・パーククラブの主体性を醸成できるよう、パーククラブのことを運営会議であまり決めすぎないことも検討することが必要。
- ・パークマネージャー養成講座は、プロと一緒にやっけていくなかでノウハウを身に付けていくようなスタイルにするべき。
- ・パークマネージャーは無償か有償かについて、いずれ議論しておくことが必要。

#### 議案4：開園前における持ち込みプログラムについて

- ・その他団体は理念をどのように共有するかを検討し、試験的な受け入れ開始を検討することが必要。
- ・その他団体から企画が、公園の目標像に整合しているかどうかを判断できるように、その判断材料を早急に検討するべき。
- ・開設前だけでなく、開設後も同じく制限をかけるという話がありえる。安全管理の面から判断だけではなく、自然保全の面から判断することができるしくみづくりが必要。
- ・パークレンジャーにならなければできない活動と外部団体ができる活動を整理しておくことが必要。

#### 委員長のまとめ

- ・「コンセプトブックと公園のプロモーションについて」は本日の意見を考慮して、作業を進めてほしい。
- ・「パーククラブについて」はパークマネージャーとパークレンジャーの関係、パークレンジャーのステップアップ講座の内容について、整理が必要。また、パーククラブの組織を分かりやすく説明するような図が必要。
- ・「開園前における持ち込みプログラムについて」は、練習を兼ねて一度運営会議で具体的な活動の企画を審査してみることが必要。その積み重ねの中で認証の条件を明らかにしていく必要がある